

令和4年9月定例会 代表質問

高村の質問と理事者答弁の一部を抜粋して掲載しております。

公共施設のwi-fi環境について

Q 市内の公共施設における貸し会議室・視聴覚室・講座室・多目的室等では、いまだにWi-Fi環境の無いところがあるが、現在の状況と計画は？

A 情報化推進担当理事 答弁
今年度、避難所施設等の整備が完了する予定で、令和5年度には未整備の施設に整備していく予定。

本庁舎改修工事について

Q 長く使っても約15年の市役所本庁舎で、増築の必要性和27億円という予算を投じて改修する理由が乏しい。トイレについては、わざわざ建物を増築ではなく、既存のものを改修することはできないのか。知恵を出し合って課題解決に向けた議論をされたのか？

A 庁舎改修担当理事 答弁
バリアフリー対応や利便性の課題を解決するため、低層棟に接続するエレベーター及びトイレを備えた棟の増築が必要。併せて、今後建て替えまでの期間に必要な設備等の改修をまとめて実施する。

市内の自転車駐車場の赤字について

Q 建物や設備の老朽化に伴う補修費・保守点検費用の高額化・自転車の大型化に対応できない事で収容率の減少・委託料の増加など、問題は山積。赤字体質で、将来世代に無駄な負担をさせない為に、何か計画策定などあるのか？

A 土木部長 答弁
需要減の原付バイク置き場を自転車駐車スペースへの変更や、片山保管所を自転車駐車場に変更する計画がある。コロナ禍で利用率が低下したが、今後も支出の精査をし、最適な収容台数を検討する。

意見 赤字体質からの脱却のためには、今後思い切った判断や抜本的な取り組みが必要。

市民体育館のエアコン設置状況について

Q 避難施設にもなり得る市民体育館のエアコンについて、設置状況と計画は？

A 都市魅力部長 答弁
各体育館の体育室において未設置の所が多く存在する。今年度及び来年度の2か年で策定予定のスポーツ施設整備方針等の計画の中で、費用対効果も踏まえ、関係部局と協議し、必要性を検討する。

公共施設のトイレ改修計画について

Q 市内の公共施設(コミセン・公民館・図書館・運動施設・市民プール・博物館等)における、トイレの改修計画は？

A 公共施設整備担当理事 答弁
建て替えや大規模修繕等の機会に、床のドライ化や便器の洋式化等の改修をしており、今後も同様に対応していく。

公園について

Q 市内のどの公園にどんな遊具があるのか？何のスポーツが可能なのか？今のホームページではわかりにくい。Googleマップ等を活用して、子どもたちでも簡単に検索できて、わかりやすい仕組みにされてはどうか？

A 土木部長 答弁
江坂公園と桃山公園につきましては、指定管理者によるホームページを立ち上げており、今後、他の公園につきましてもホームページのリニューアルに取り組む。

岸部中の遊休施設・未利用地等について

Q 点在する物件や施設を一部だけでなく、一体的に考えて動かさなければ、課題は先送りになるばかりではないかと懸念するが、現在の進捗や計画は？

A 公共施設整備担当理事 答弁
岸部中エリアに点在する本市所有の土地や建物に関する状況を把握し、関係所管と連携を図りながら情報収集に努めており、今後、施設の建て替え等に合わせた複合化・有効活用など検討していく。

保育園・こども園の一時預かりについて

Q 一時預かりの可否について、それぞれの園に確認の電話が必要という現状を改善し、システムチックに事務作業が簡略化・効率化される仕組みなどを早急に構築すべきでは？

A 児童部長 答弁
即座に簡略化・効率化することは困難だが、利用者の利便性の向上を図るため、他市の一時預かり事業予約システムの導入状況の把握に努める。

給食調理補助員の配置について

Q 規模の大きい現場では、子どもたちへの給食の提供時間間に合うように、フル回転で走り回っている状況と聞く。教育委員会は現場の善意に丸投げして責務を果たせていないのではないかと現場の状況の把握と働いている方々の声をいま一度聞くべきではないかと？

A 学校教育部長 答弁
コロナの影響で、調理補助員の欠員から現場に負担をかけた状況もあったが、職員が安心して働けるよう、現場の状況把握に努め、現場の意見を聞きながら、職場環境の改善に努める。

市長の市政運営について



2019年の市長選挙において、公約とされた「これからの吹田市にほんまに必要な100のお約束」について、もともと執行する予定だったであろう項目も多数見受けられるが、そんな中でも停滞しているように感じるものもある。

市長はアレやりますコレやりますと公言しているが、もともと既定路線にあった政策ばかりで、これを市民と約束し、約束を果たすことは当然の責務である。進行している政策も「とりあえず取り組んだからとりあえずOK」といった屁理屈では約束を果たしたとは到底言えないのではないかと。もともと多数が既定路線にあった100項目について、本当に吹田市にとって必要なことだと考えるなら、4年間あったこの任期中に、完遂できなかったとしても、着地点が見える所まで遂行すべきである。

私から市長に対し、以上の言葉を添えて、現時点で自身を過大評価されることなく、また自己満足に浸らずに、市民の為に残り任期しっかりと取り組んで頂くように、要望いたしました。